

服薬アドヒアランス向上のための訪問服薬・心理教室プログラム

HOPE を使ってみませんか

1) 東京薬科大学、2) 豊田西病院、3) 訪問看護ステーションすみ香、4) 西九州大学、5) ともころのクリニック、6) 犬山病院、7) 上毛病院、8) 中島映像教材出版、9) 福島県立医科大学会津医療センター

齋藤 百枝美¹⁾、伊神 敬人²⁾、小中原 隆史³⁾、小松 洋平⁴⁾、高木 友徳⁵⁾、永井 典子⁶⁾、橋本 俊英⁷⁾、中島 太一⁸⁾、丹羽 真一⁹⁾

【目的】

現在、精神科医療は「入院医療中心から地域生活中心へ」という方策により在宅患者への訪問サービスの充実が図られています。精神科医療において多くの在宅患者が向精神薬を服用しており、服薬アドヒアランスの向上が再発・再入院防止の重要課題です。服薬自己管理モジュールは米国のリバーマンらが開発した自立生活技能訓練プログラムであり、服薬アドヒアランスの向上においてすでに有効性が認められています。服薬自己管理モジュールの理論的根拠は認知行動療法と社会的学習理論で、認知機能の低下した患者さんでも服薬に関する知識と技能が学べるプログラムです。通常、服薬自己管理モジュールは集団で実施されますが、在宅医療において実施するためには個別対応が必要となり、実施時間の制約もあります。このため、在宅訪問サービス用の訪問服薬・心理教育プログラム（Houmon Psycho-Education on Medication Program : HOPE）を開発しました。

【方法】

HOPE は 9 名から構成される SST 普及協会 Mobile Medication Management Program Task Force (SST-MMT) により開発されました。HOPE は福島医大版服薬自己管理モジュールを基に、在宅訪問の中で持ち運びに便利で多くの機能を備えた iPad や PC を用いて個別に実施するインターネットを活用した新しい服薬自己管理サポートシステムです。HOPE プログラムは 1 回約 15 分、8 回で構成されています。毎回の訪問で、宿題の確認、前回の復習、テーマの紹介と動機付け、ビデオ視聴、質疑応答、ロールプレイの 6 つの過程を経て学習することで、服薬自己管理に関する知識の理解と定着が図られます。訪問スタッフは「指導者用マニュアル」に従って学習を進めるため、訪問スタッフが代わっても同質の指導が可能です。また、実際の訪問場面を想定したデモンストレーションビデオも作成し、訪問スタッフの理解を助けています。利用者にはワークブックが用意されており、復習・自己学習が可能です。

【結果・考察】

訪問スタッフは SST-MMT が作成したインターネットホームページ上から HOPE や他の服薬指導に必要な様々な資料をダウンロードし、訪問先で詳しいデータや資料を利用者に示すことができます。また、利用者に必要な情報を映像によりわかりやすく提供することにより利用者の理解の助けとなります。HOPE はマニュアルに沿って進めることができるため、様々な職種 of 訪問スタッフが実施できる簡便なプログラムであり、在宅訪問サービス用の HOPE は大変有用と考えています。発表当日は、HOPE を使用した症例を含めて報告します。